

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

エルサルバドル共和国

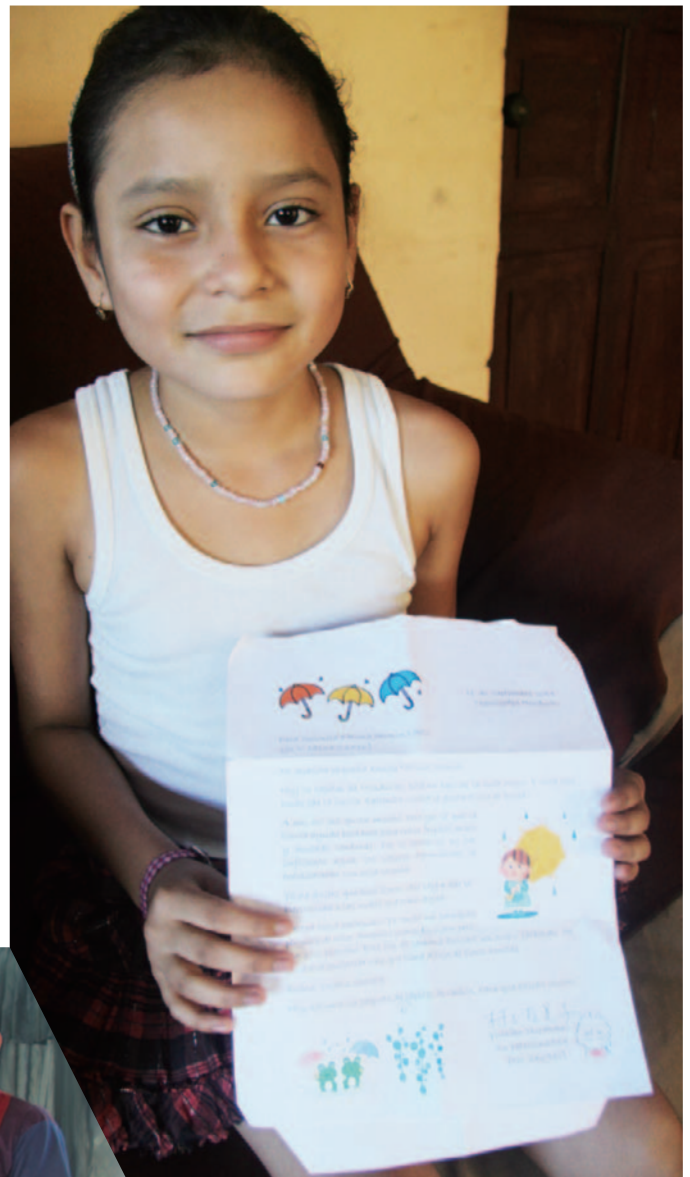
ティエラ・ヌエバ地域開発プログラム(SLV-181324)

チャイルドストーリー

チャイルド・スポンサーに励まされ、 希望を持って成長しています

ティエラ・ヌエバ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすジャズミンちゃんは、2年前に母親が家を出て行ってから、祖母と父親、兄弟とともに暮らしています。そんなジャズミンちゃんにとって、日本のチャイルド・スポンサーからの手紙が大きな励ましになっています。「よく勉強し、自分を大切にし、行儀よくするように」というチャイルド・スポンサーからの言葉に従って、ジャズミンちゃんは学校で一生懸命勉強し、昨年はクラスで3番の成績を修めることができました。もっと勉強して、将来は医師になって病気の人を治してあげたいという夢を持っています。

父親のウィルバーさんは、「エルサルバドルでは女性の社会的地位が低く、教育を受ける機会に恵まれないことも多いのです。でもご支援によって、ジャズミンは自分が大切にされる価値のある存在であると知り、自尊心を持って成長することができています」とチャイルド・スポンサーの存在に感謝しています。「私を励ましてくださるチャイルド・スポンサーのYさんと、Yさんが住んでいる日本に神様の祝福がありますように!」とジャズミンちゃんは笑顔で話してくれました。



チャイルド・スポンサーからの手紙を楽しみにしているジャズミンちゃん(9歳)



ジャズミンちゃんと家族

0～6歳を対象とした事業

「子どもの健康は私たちが守る」 子育て指導員が活躍しています

ADPでは地域の母親の間で「子どもの健康・栄養状態改善サークル」(以下、CBSN*)というグループを26結成し、子どもの健康管理、栄養に関してともに学び合う場を作っています。参加者の中から「子育て指導員」が選出され、村の子どもたちの健康状態を定期的に確認したり、ほかの母親たちに各種予防接種の内容や時期について伝え、接種をし忘れないよう手助けをしています。この働きにより、支援地域内の子どもたちの予防接種カバー率は76.5%(2010年)から99.8%(2013年)まで目覚しく向上しました。

※CBSN : Círculos de Buena Salud y Nutrición というスペイン語名の略



予防接種カバー率は
99.8%に!



CBSNに参加する母親たち

7～20歳を対象とした事業

子どもクラブが青少年の学びと成長を支えています

放課後に「子どもクラブ」を開催し、地域の青少年たちに算数、国語の補修授業のほか、音楽、絵画、ダンスなどのレッスンや道徳教育や性教育の機会を提供しています。支援地域では、学年が上がるにつれて授業についていけなかったり、家庭の事情で退学してしまう子どもが増えていきますが、子どもクラブの助けもあり、小学校の中途退学率は9%(2010年)から3%(2013年)まで低下しました。青少年は、麻薬、アルコールの誘惑や通称「マラス」という巨大な犯罪組織からの勧誘や脅迫といった危険と日々隣り合わせの中で生きています。子どもクラブは青少年の健全な成長のためにも大切な場です。



子どもクラブでほかの子どもたちとともに楽しく遊び、学んでいます



中途退学率が
9%から**3%**に低下



子どもクラブでアクセサリーの作り方を学びました

21歳以上(成人)を対象とした事業

地域全体で協力し、チクングニア熱の蔓延を食い止めました

2014年、エルサルバドルではチクングニア熱*が大流行し、国内で3万人近くが感染しました。支援地域では、地方政府、保健センター、ADPなどが迅速に協力して蚊の駆除のための燻煙剤をまき、汚い水が溜まらないよう青少年にも手伝ってもらいながら地域内の清掃を行いました。この結果、支援地域内での感染者数は、国内でも非常に少ないレベルにとどめることができました。

*チクングニア熱：蚊が媒介するウイルス性疾患で、患者は発熱、発疹、関節痛などを起こす



青少年も動員しての清掃活動



感染者数は国内最少レベル



子どもクラブに参加するチャイルドたち

正しい価値観や子どもの権利についての学びが、子どもたちの健全な成長を助けています

ノーマちゃんは12歳の時に子どもクラブに初めて参加しました。「子どもクラブで、人との接し方や正しい価値観を学んだことは、私にとって大きかったです」と語るノーマちゃんは、今はクラブでインストラクターを務めています。将来は幼稚園の教師になって、子どもたちの健全な成長を助けたいという夢を持っています。

ノーマちゃんの妹のブレンダちゃんと弟のジュリオ君も、子どもクラブに参加しています。子どもクラブでは、7歳から10代の子どもたちが、コミュニケーション、人間関

係、価値観や子どもの権利について学んだり、算数や語学の補習を受けたり、創造的な表現方法(スポーツ、美術、文化)を学んだりしています。ブレンダちゃんは、子どもクラブで足し算や引き算の復習をしたことで、成績が良くなったと言います。母親のマリアさんは、「2人が子どもクラブに参加するようになってから、お互い助け合って良い関係を築けるようになり、兄弟喧嘩が減りました。地域でこのような健全な子どもの集会があることに感謝しています」と話しています。



子どもクラブで祖母と母親のために作ったクラフト

子どもクラブでインストラクターを務めるノーマちゃん(中央、17歳)と子どもクラブに参加するブレンダちゃん(左、9歳)、ジュリオ君(右前、7歳)



ADPマネージャー・インタビュー

Q.2014年度、ADPの活動をする上で大変だったことは何ですか。

支援地域は治安が悪いため、子どもや青少年を対象とした活動を行う上で様々な制約があります。スタッフの安全対策にも気を遣っています。また、治安の悪化により身の危険を感じたり、より良い職を求めて地域外に引越す家族も後を絶ちません。ADPでは地域の人々と連携を強め、引き続き健全な青少年の発達を促す活動に、より多くの子どもたちや人々の参加を促していきたいと考えています。

Q.ワールド・ビジョンで働く原動力となっているものは何ですか。

厳しい環境に置かれた子どもたちの生活が改善し、子どもたちの権利が守られるようになることで、子どもたちとその家族だけでなく地域全体が変わっていきます。そのような良い変化を見ることができていることに喜びを感じています。



ティエラ・ヌエバADPマネージャー ラファエル・フエンテス(右)。左はこのADPを担当する松岡スタッフ

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



ADPの活動を通して「平和」について学ぶ子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。そのほか、2014年度は特別に身体障害を抱えた子どもたちに対して車椅子を支給しました。

会計報告

SLV-181324

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年9月30日

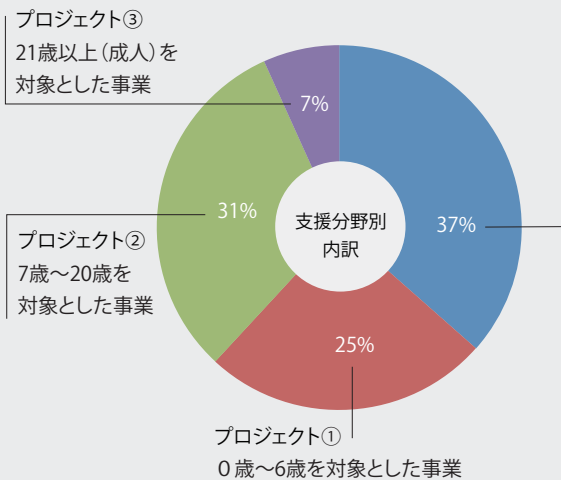
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	27,583,631
当期支援額	27,583,631
前期繰越金	2,175,317
プログラム支援額合計	29,758,948

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	11,096,391
プロジェクト① 0歳～6歳を対象とした事業	7,710,955
プロジェクト② 7歳～20歳を対象とした事業	9,535,710
プロジェクト③ 21歳以上(成人)を対象とした事業	2,052,693
プログラム支出額合計	30,395,749
次期繰越額	-636,801

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30～17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp